

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570800734		
法人名	株式会社 ひまわりあくと		
事業所名	グループホーム たんぼぼ		
所在地	山口県岩国市保津町2丁目3番3号		
自己評価作成日	令和 5年 6月 17日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋の建物でぬくもりの感じられる造りとなっており、圧迫感のない広々とした空間で安全に心地よく生活していただけるよう工夫しています。「目配り、気配り、明るい笑顔」を理念とし、利用者の皆様が日々を楽しみながら、その人らしく生活が送られるよう季節のレクリエーションや外出支援等行っています。また、一人ひとりが役割を持って生活できるような場面づくりに努め、その中で喜び、達成感を自己表現できるよう支援しています。
医師・薬剤師による居宅療養管理指導も行われ、健康管理や医療・安全面にも配慮しています。利用者さまへの支援はもちろんのこと、ご家族さまとの関係も大切に、何でも相談しあえる関係性を築けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃の生活歴の記録は『人生の一覧表』として、年代別に記入し、どの職員が閲覧してもすぐに把握出来る記入方法で、そこには趣味や嗜好・健康状態など書かれケアプランに反映させている。また職員は薬に対する知識を持ち、家族が安心して健康管理を任せ、更には利用者及び家族の希望に沿って通院も同行している。毎日の暮らしの中で利用者が集まるリビングは回り廊下を上手く取り入れた造りで、天井は高く和風の天窓がある。居室も障子窓や畳敷きの部屋が多く、利用者は自宅に居るような暮らしがある。事業所が定期的に行っている運営推進会議は、家族を中心に多職種の関係者が意見交換を行い、会議の内容も報告や質疑応答など多岐にわたっている。更には利用者家族に議事録や写真を添えて毎回送付している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「目配り、気配り、明るい笑顔」を理念に掲げ、その実現に向けたサービスの実践に努めており、理念にそって皆が同じ方向性をもって取り組んでいけるよう、ホールやロウカールームなど、目につく場所に理念を掲示している。	利用者に寄り添い共に暮らせるよう、理念に基づき職員は実践に活かしている。職員は利用者が部屋に閉じこもらずその人らしい暮らしを支援できるようチームで取り組んでいる。また理念は小さなカードに記入したものを、事務所内の数か所に掲示し目標を見える化する事で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍において外出機会やボランティアの受け入れなどが減り、地域の方々との交流は極端に減っている状態であるが、2か月に一度、地域の訪問美容院の受け入れは継続している。	町内の回覧版で地域の情報は得られる。現状では地域行事には参加出来ないが、住民が作った紙のゴミ箱を頂くなど間接的ではあるが、事業所はつきあいを継続している。利用者は地元の住民が多いが今は直接の交流は出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員の方を通じて、ホームの役割、また地域との関りが広がるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各職員が自己評価を行う事で業務内容の振り返りを行い、外部評価での評価を経て改善する必要がある点については皆で改善にむけて取り組めるよう話し合いを行っている。	職員は6ヶ月前から日頃の支援状況の評価を行い、無記名で意見を提出し管理者が意見を集約し、自己評価の作成に活かしている。職員は評価の目的を理解しながら取り組み、事業所は今後も評価の結果を振り返り、進化しながら改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関してはコロナ禍に伴い資料を郵送する形での対応となっているが、ホーム内での皆さんの生活状況を写真付きで紹介し、またコロナへの対策方法、事故報告等々情報を合わせて発信し、ご意見をいただきながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、コロナ禍で3年間主に書面会議で行い、関係者が参加しヒヤリハットを含め報告や事業所内での細かな様子、あらかじめ頂いていた質問に応えるなど、多岐に渡った内容で議事録をまとめ、毎回家族に送付している。今年7月には近くの会館で、対面で開催する事ができ関係者が出席した。	

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岩国市とは常に連携、相談しながら進めている。運営推進会議などの場を通じて相談したり助言をいただくなどして、サービスの質の向上に努めている。	市町の担当者とは、事業所の管理者が窓口に出掛け、例えば待機状況を確認したり質問や相談をしている。地域包括支援センターとは『灘地区ご近所支えあう会』で話し合う機会がある。また市町が主催するオンライン研修には職員が参加することもある。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を定期的に行い、皆で継続して拘束について考えていけるよう努めている。 特に起こりうる可能性の高い言葉による拘束（スピーチロック）、薬による拘束（ドラッグロック）について重視しながらケアに取り組んでいる。	見守り重視で日々のケアに取り組んでいる。言葉による行動の抑制なども職員間で注意しながら取り組んでいる。身体拘束委員会は2か月に1度行い言葉による拘束を始め、薬による拘束にも関心をもち、医師や薬剤師からの情報を共有し、減薬につなげながら身体拘束をしない支援に努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことのないよう、入浴時などに打ち身や傷などがいないか確認を行っている。また、職員がストレスのある中で業務を行い、それが虐待につながる事のないよう、ゆとりのある勤務・人員体制に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はおられないが、過去に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用していた方もおられ、今後もそのような場面に元に職員が学ぶ機会ももてるよう努めていく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明はもとより、詳細まで理解していただけるよう丁寧に説明を行っている。契約解消に至る場合は利用者や家族に十分な説明と納得をもらい、安心して退居先に移られるよう支援している。		

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望や訴えについてはしっかりと耳を傾け、職員間で情報を共有している。 コロナ禍において家族との対面による意見交換は減っているが、平日頃から電話などで連絡を取り合い、問題などがあれば解決に向けて迅速にとりくむようにしている。	玄関先に意見箱を設置しているが意見は来所時や電話等が多い。意見や要望の内容は外出が困難な今、体力の維持や窓越しではなく、直接の面会が出来るよう希望している。職員は話し合いを行いそれらを運営に反映出来るよう努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者やリーダーは普段の業務などを通じて職員からの意見や提案を聞くよう心掛けている。 必要な内容については代表者にも報告し、職員からの意見や提案が管理者でとどまる事のないよう気をつけている。	職員からの意見は、会議の場だけでなく様々な場面で聞いている。コロナ禍での支援を行うため、職員からの要望でシフトの変更や、業務内容でも提案を聞く機会を設け、必要に応じて業務改善等に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各職員の資格取得や勤務時間等について柔軟に対応し、特に心身の健康維持の為に体調変化がみられる際には十分な休息がとれるよう支援している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において外部研修への参加を控えてきたが、徐々にオンライン研修への参加などを行いながら、職員の質の確保や向上に努めている。	働きやすい環境を作る為、職員からの意見は様々な場面で聞く機会を設けている。また日々の細やかなケアの工夫など話し合い、職員から情報を得て業務改善を行っている。研修の参加や資格取得等も、法人は出来る範囲でバックアップし、職員の能力向上に反映させている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において、同業者などとの交流はできていない。		

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに必ず本人に会って話を聞き、本人の思いに向きあい、受け止められるよう努めている。また、ホームで安全な生活を送っていただけるよう環境づくりにも配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族が困っていること、求めている事をしっかりと聞き、理解しながら思いを受け止め信頼関係を気づけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際はホームでの受け入れの可否に関わらず、本人・家族の要望を聞き取り、必要に応じて他サービスの紹介、また地域のケアマネジャー等を連携しながら対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主導ではなく、支援が必要な場面では一緒に、自分で出来る能力がある場面では見守り支援を行いながら、しっかりとコミュニケーションをとりながら関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても家族との関係性が希薄とならないよう、遠方の家族には電話やオンライン面会に対応している。ホームでの面会では窓越しでの会話となってしまうため、必ず職員があいだを取り持ち、お互いがコミュニケーションをとりやすいよう支援している。		

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においても、可能な限り住み慣れた地域にドライブに出かけたり、かかりつけの病院へ受診できるよう支援している。また、家族だけではなく友人などの面会や手紙のやりとり等にも柔軟に対応し、関りが途切れないよう努めている。	本人が希望することを毎日の暮らしを通して把握し関係の継続に努めている。現状では家族と共に出掛けるなど気軽に外出は出来ないが、季節を感じながらドライブをしている。突然の知人の訪問も窓越しではあるが受け入れるなど、職員は出来る限り途切れない関係の継続に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を促し、また関係性にも配慮を行いながら、孤立し居室に閉じこもった生活を送ることがないように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の状態悪化により入院した場合などは随時訪問し、家族の相談や支援に努めている。サービス利用が終了した場合においても、必要に応じて家族と連絡を取り合いながら関係を断ち切らないよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から利用者一人ひとりとの関わりの中で、本人の思いや意向を把握できるよう職員で努めている。また、利用者が普段言えない思いや悩みがないか、管理者やリーダーが個別に会話する機会を設けている。	利用者一人ひとりの生活歴の作成は、家族の協力のもと年代別にまとめ、健康状態を含め思いや暮らし方を把握し、ケアプランにつなげている。会話が困難で意向の把握が難しい利用者の想いを汲み取り、出来る限り希望に近づけるよう支援している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や情報は入居前に家族などから情報を収集し、入居後は本人の日々の語りの中や、家族等の訪問時に聞きながら把握に努めている。 本人の得意な事があれば、生活の中で取り組んでもらえるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の生活の流れや体調の変化、できること、できる可能性に着目しながら、本人の全体像を把握するよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立ち、本人、家族、職員などからの意見、要望を取り入れながら介護計画を作成している。 また日々の生活記録などから状況を把握し、必要な支援を把握し随時計画の見直しをおこなっている。	管理者と計画作成担当者が、3ヶ月に1度モニタリングを行い、職員の意見を参考に評価し計画を立てている。例えば服薬の管理計画が上手くいかない場合は、医師や薬剤師と相談し現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別生活記録や申し送りにより、職員間で情報を共有している。記録については本人の言動などを記録しながら、画一的なものとならないよう取り組んでいる。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、病院への通院介助や生活用品の買い物など柔軟な対応を心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター、自治会長や民生委員、消防署などの連携は継続して図っているが、コロナ禍により外出機会を設ける機会が減り、積極的に地域資源と協働するには至っていない。		

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほかに、本人や家族が希望するかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。家族の負担を減らす為にも基本的に職員が通院対応し、随時結果を家族に報告している。	利用開始時に協力医療機関の説明を行い、利用者のかかりつけ医がある場合は同行受診している。協力医療機関を希望の利用者は、月2回の訪問診療がある。歯科は必要時に受診している。有事の対応は医師や看護師が対応し、必要に応じて専門医を受診している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常などに早い段階で対応できるよう、看護職員、協力医療機関等の看護師等に都度相談しながら、健康管理や医療支援につなげている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な医療が円滑に行われるよう情報の提供を行っている。また入院後は医療機関や家族と回復状況などの情報を交換しながら、早期に退院できるよう連携に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り介護に関する指針」を作成し、重度化・終末期に向けた方針について事前に本人・家族に説明している。その中で、当ホームが対応しうる支援の方法を踏まえ、関係者と連携しながら支援していけるよう努めている。	利用開始時に家族等に説明を行い、重度化した場合改めて家族と話し合い、方針を共有しながら支援している。事業所は数年前から看取りを行う機会はないが、職員は話し合いを行い情報を共有しながら、家族の気持ちに寄り添い、安心して支援が出来るよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者一人ひとりの状況を把握し、事故報告書などを活用しながら事故の防止に努めている。 応急手当や初期対応の訓練などについてはコロナ禍により全ての職員が受講できていない状況である。	突発的な事故や発熱、誤嚥、窒息、転倒などに加え、新型コロナウイルス感染対応など体調の変化が起きた時、発生時の備えを、職員は話しあっている。日頃の様々なヒヤリハット等も、職員間で対策を共有し、緊急対応力を身につけている。今後も細かな報告を行うため、更なる取り組みを積極的に検討している。	

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては年2回、夜間を想定し消防署の協力の元、消火、通報、避難等訓練を実施している。 当ホームは水害が想定される地域であるため、避難が必要となった際に関係機関や職員間で迅速に連絡がとりあえるよう見えやすい場所に掲示している。	避難訓練は参加できる利用者と共に年2回行っている。ハザードマップで地理的環境を把握し、位置や危険性など確認を行い、事業所内でも避難方法や場所を決め行っている。また地域の自治会に運営推進会議を通して協力を呼びかけるなど対策を行っている。備蓄は4日分確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への出入り、排泄、入浴、着替え等については特に支援が必要な場面となるが、支援という名目で職員側が一方的な介入をして利用者の人格、尊厳を傷つけることのないよう、まず声掛けを行い、了解を得たうえでの対応を心がけている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、情報を共有しながら職員は日頃の声掛けや、ノックをしてからドアを開ける等、プライバシーを守る対応に取り組んでいる。また自立支援の観点から必要以上に介護しないよう心掛け、個々の人格を尊重する大切さを共有しながら支援に繋げている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に本人の希望にそった支援ができるよう、普段からの関係づくりを大切にし対応を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にした介護を心がけ、職員側の決まりや時間などに捕らわれることなく、一人ひとりのペースを大切にした個別ケアに努めている。起床、就寝時間、食事の時間などは特に柔軟に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性、要望、生活歴に応じて髪型や服装などの身だしなみ、おしゃれなど個別に支援している。		

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍に伴い、盛り付けや配膳、食器洗い等は職員が行っているが、トレー拭きは利用者をお願いしている。現在配食の食事を提供しているが、利用者の嗜好やアレルギーにも配慮し、食事を楽しめるよう支援している。	日常の食事は2年前から配食を利用している。メニューは寿司やうどん、ラーメンなどもある。誕生日には職員と利用者が手作りしたケーキでお祝いすることもある。イス・テーブルの高さや、利用者同士が楽しく食事が出るよう食事環境にも気を配り支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事の状態を把握し、必要に応じて食事量の調整や、刻み食など対応している。水分については一日1,500cc以上を目標に、食事の時間以外でも細目に摂取できるよう配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、就寝前に声掛けを行い、一人ひとりの力量に応じた歯磨きや義歯洗浄を支援し、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じて歯科衛生士による訪問による支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、さりげない声掛け誘導を行っている。リハビリパンツ・パッドを使用している方もトイレで排泄できるよう随時トイレへ誘導している。	フロアには車イス対応を含め3カ所のトイレがある。職員は利用者の排泄パターンを共有し誘導の機会を把握している。利用開始時はリハビリパンツだったが、布パンツに変更出来た事例もある。便秘の予防としても、水分管理や排便時の姿勢や食事、運動にも気を配りし、その人にあった支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記録を確認しながら、日課の体操やレクリエーション等で身体を動かす中で自然排便につながるよう支援している。服薬による調整が必要な場合も、医師や看護師に相談し、個々の排泄状態に合わせて調整を行っている。		

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2～3回を基本として入浴していただいている。夜間の入浴対応は難しいが、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるような雰囲気づくりに努めている。 体調不良等で入浴できない方などには、必要に応じて清拭や足浴で対応している。	入浴は基本的に週2～3回で午前中に、利用者の習慣や状態に合わせて行っている。日頃は入浴剤を使用していないが、ゆず湯など楽しむこともある。入浴後は皮膚の状態に合わせて保湿を心掛けている。入浴環境もゆっくり入浴出来るよう、気配りしながら支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状況を把握し、睡眠リズムに乱れがある時は、暖かい飲み物で入眠をさそったり、安心して心地よく眠れるよう声掛けを行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬内容、作用が分かる表を作成し、変更の度に申し送りなどで情報の共有に努めている。服薬確認も徹底し、医師、薬剤師、看護師等との連携を図り、適切な服薬支援を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの情報収集により、一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の豊かな暮らしを支えるために、役割、楽しみごとを作り出せるよう努めている。	職員は利用者の生活歴を参考に、歌・レクリエーションなど特技を活かした取り組みもあり、家事の好きな人は家事作業をしている。中には居室でラジオを聞くのが好きな利用者もいる。職員は利用者が楽しめる支援をチームで行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、以前のように希望にそった外出支援は行えていない。しかし、気分転換を兼ねた庭での日向ぼっこや、近所への散歩など、感染予防に配慮しながらの外出支援を行っている。	職員は外気を感じて貰うため、天気の良い日は毎日玄関先に出て、季節を感じてもらっている。時には隣のユニットの利用者と会話をすることもあり、職員は出来る限り室内に閉じこもらない支援をしている。今後も外気に触れる機会をつくるよう工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望があれば家族と相談の上でお金を所持していただき買い物などに使用してもらっているが、現在はコロナ禍に伴い買い物などの外出支援は行えていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もおられ、また希望があればいつでも電話を使用できるよう支援している。最近はオンライン面会を利用したり、手紙や葉書きを作成する際は必要に応じて支援しながら家族等との交流を支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、写真や季節に応じた壁紙を掲示するなど、四季折々の五感に働きかける様々な刺激を取り入れた生活空間を大切にしている。	太い梁や障子を基調にしたフロアーは天井も高く和風の趣がある。壁には制作した七夕飾りや手作りの日めくりカレンダーがある。フロアーはそれぞれの居室の中央に位置し、人の気配の中で散歩を楽しむ利用者もいる。またソファとテレビの配置など心地よく過ごすための空間がある。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファや畳などを配置し、玄関ホールにもベンチを置いてくつろげるようにしている。利用者個々の状態や、利用者同士の関係性に配慮した居場所づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち物に制限なく、利用者本人の思いの品や写真を飾る等、馴染みのあるものを活かし、その人らしく過ごせるよう配慮している。	居室入口は名札とトールペイントの飾り付けが掛けてある。ドアに小窓があり利用者の希望で小窓を紙でふさいでいる人もいる。居室は多くが畳の部屋で大きな障子窓で、ベッド、洗面台が備え付けられ、落ち着いた部屋作りで、自由に過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目（東ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全で自立した生活が送れるよう屋内各所に手すりなどを設置している。また、居室、風呂場、トイレ入口には親しみのある絵札をかけ、混乱や失敗を防ぐよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (西ユニット)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「目配り、気配り、明るい笑顔」を理念に掲げ、その実現に向けたサービスの実践に努めており、理念にそって皆が同じ方向性をもって取り組んでいけるよう、ホールやロッカールームなど、目につく場所に理念を掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在コロナ禍において外出機会やボランティアの受け入れなどが減り、地域の方々との交流は極端に減っている状態であるが、2か月に一度、地域の訪問美容院の受け入れは継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員の方を通じて、ホームの役割、また地域との関りが広がるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各職員が自己評価を行う事で業務内容の振り返りを行い、外部評価での評価を経て改善する必要がある点については皆で改善にむけて取り組めるよう話し合いを行っている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関してはコロナ禍に伴い資料を郵送する形での対応となっているが、ホーム内での皆さんの生活状況を写真付きで紹介し、またコロナへの対策方法、事故報告等々情報を合わせて発信し、ご意見をいただきながらサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岩国市とは常に連携、相談しながら進めている。運営推進会議などの場を通じて相談したり助言をいただくなどして、サービスの質の向上に努めている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を定期的に行い、皆で継続して拘束について考えていけるよう努めている。 特に起こりうる可能性の高い言葉による拘束（スピーチロック）、薬による拘束（ドラッグロック）について重視しながらケアに取り組んでいる。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことのないよう、入浴時などに打ち身や傷などがないか確認を行っている。また、職員がストレスのある中で業務を行い、それが虐待につながる事のないよう、ゆとりのある勤務・人員体制に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はおられないが、過去に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用していた方もおられ、今後もそのような場面を元に職員が学ぶ機会ももてるよう努めていく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明はもとより、詳細まで理解していただけるよう丁寧に説明を行っている。契約解消に至る場合は利用者や家族に十分な説明と納得をもらい、安心して退居先に移られるよう支援している。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望や訴えについてはしっかりと耳を傾け、職員間で情報を共有している。 コロナ禍において家族との対面による意見交換は減っているが、平日頃から電話などで連絡を取り合い、問題などがあれば解決に向けて迅速にとりくむようにしている。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者やリーダーは普段の業務などを通じて職員からの意見や提案を聞くよう心掛けている。 必要な内容については代表者にも報告し、職員からの意見や提案が管理者でとどまる事のないよう気をつけている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各職員の資格取得や勤務時間等について柔軟に対応し、特に心身の健康維持の為に体調変化がみられる際には十分な休息がとれるよう支援している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において外部研修への参加を控えてきたが、徐々にオンライン研修への参加などを行いながら、職員の質の確保や向上に努めている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において、同業者などとの交流はできていない。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに必ず本人に会って話を聞き、本人の思いに向きあい、受け止められるよう努めている。また、ホームで安全な生活を送っていただけるよう環境づくりにも配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族が困っていること、求めている事をしっかりと聞き、理解しながら思いを受け止め信頼関係を気づけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際はホームでの受け入れの可否に関わらず、本人・家族の要望を聞き取り、必要に応じて他サービスの紹介、また地域のケアマネジャー等を連携しながら対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主導ではなく、支援が必要な場面では一緒に、自分で出来る能力がある場面では見守り支援を行いながら、しっかりとコミュニケーションをとりながら関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても家族との関係性が希薄とならないよう、遠方の家族には電話やオンライン面会に対応している。ホームでの面会では窓越しでの会話となってしまうため、必ず職員があいだを取り持ち、お互いがコミュニケーションをとりやすいよう支援している。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においても、可能な限り住み慣れた地域にドライブに出かけたり、かかりつけの病院へ受診できるよう支援している。また、家族だけではなく友人などの面会や手紙のやりとり等にも柔軟に対応し、関りが途切れないよう努めている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を促し、また関係性にも配慮を行いながら、孤立し居室に閉じこもった生活を送ることがないように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の状態悪化により入院した場合などは随時訪問し、家族の相談や支援に努めている。サービス利用が終了した場合においても、必要に応じて家族と連絡を取り合いながら関係を断ち切らないよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から利用者一人ひとりとの関わりの中で、本人の思いや意向を把握できるよう職員で努めている。 また、利用者が普段言えない思いや悩みがないか、管理者やリーダーが個別に会話する機会を設けている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や情報は入居前に家族などから情報を収集し、入居後は本人の日々の語りの中や、家族等の訪問時に聞きながら把握に努めている。 本人の得意な事があれば、生活の中で取り組んでもらえるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の生活の流れや体調の変化、できること、できる可能性に着目しながら、本人の全体像を把握するよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立ち、本人、家族、職員などからの意見、要望を取り入れながら介護計画を作成している。 また日々の生活記録などから状況を把握し、必要な支援を把握し随時計画の見直しをおこなっている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別生活記録や申し送りにより、職員間で情報を共有している。記録については本人の言動などを記録しながら、画一的なものとならないよう取り組んでいる。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、病院への通院介助や生活用品の買い物など柔軟な対応を心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター、自治会長や民生委員、消防署などの連携は継続して図っているが、コロナ禍により外出機会を設ける機会が減り、積極的に地域資源と協働するには至っていない。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほかに、本人や家族が希望するかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。家族の負担を減らす為にも基本的に職員が通院対応し、随時結果を家族に報告している。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常などに早い段階で対応できるよう、看護職員、協力医療機関等の看護師等に都度相談しながら、健康管理や医療支援につなげている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な医療が円滑に行われるよう情報の提供を行っている。また入院後は医療機関や家族と回復状況などの情報を交換しながら、早期に退院できるよう連携に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り介護に関する指針」を作成し、重度化・終末期に向けた方針について事前に本人・家族に説明している。その中で、当ホームが対応しうる支援の方法を踏まえ、関係者と連携しながら支援していけるよう努めている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者一人ひとりの状況を把握し、事故報告書などを活用しながら事故の防止に努めている。 応急手当や初期対応の訓練などについてはコロナ禍により全ての職員が受講できていない状況である。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては年2回、夜間を想定し消防署の協力の元、消火、通報、避難等訓練を実施している。 当ホームは水害が想定される地域であるため、避難が必要となった際に関係機関や職員間で迅速に連絡がとりあえるよう見えやすい場所に掲示している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への出入り、排泄、入浴、着替え等については特に支援が必要な場面となるが、支援という名目で職員側が一方的な介入をして利用者の人格、尊厳を傷つけることのないよう、まず声掛けを行い、了解を得たうえでの対応を心がけている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に本人の希望にそった支援ができるよう、普段からの関係づくりを大切にし対応を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にした介護を心がけ、職員側の決まりや時間などに捕らわれることなく、一人ひとりのペースを大切にした個別ケアに努めている。起床、就寝時間、食事の時間などは特に柔軟に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性、要望、生活歴に応じて髪型や服装などの身だしなみ、おしゃれなど個別に支援している。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍に伴い、盛り付けや配膳、食器洗い等は職員が行っているが、トレー拭きは利用者をお願いしている。現在配食の食事を提供しているが、利用者の嗜好やアレルギーにも配慮し、食事を楽しめるよう支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事の状態を把握し、必要に応じて食事量の調整や、刻み食など対応している。水分については一日1,500cc以上を目標に、食事の時間以外でも細目に摂取できるよう配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、就寝前に声掛けを行い、一人ひとりの力量に応じた歯磨きや義歯洗浄を支援し、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じて歯科衛生士による訪問による支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、さりげない声掛け誘導を行っている。リハビリパンツ・パッドを使用している方もトイレで排泄できるよう随時トイレへ誘導している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記録を確認しながら、日課の体操やレクリエーション等で身体を動かす中で自然排便につながるよう支援している。服薬による調整が必要な場合も、医師や看護師に相談し、個々の排泄状態に合わせて調整を行っている。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2～3回を基本として入浴していただいている。夜間の入浴対応は難しいが、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるような雰囲気づくりに努めている。 体調不良等で入浴できない方などには、必要に応じて清拭や足浴で対応している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状況を把握し、睡眠リズムに乱れがある時は、暖かい飲み物で入眠をさそったり、安心して心地よく眠れるよう声掛けを行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬内容、作用が分かる表を作成し、変更の度に申し送りなどで情報の共有に努めている。服薬確認も徹底し、医師、薬剤師、看護師等との連携を図り、適切な服薬支援を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの情報収集により、一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の豊かな暮らしを支えるために、役割、楽しみごとを作り出せるよう努めている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、以前のように希望にそった外出支援は行えていない。しかし、気分転換を兼ねた庭での日向ぼっこや、近所への散歩など、感染予防に配慮しながらの外出支援を行っている。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望があれば家族と相談の上でお金を所持していただき買い物などに使用してもらっているが、現在はコロナ禍に伴い買い物などの外出支援は行えていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もおられ、また希望があればいつでも電話を使用できるよう支援している。最近はオンライン面会を利用したり、手紙や葉書きを作成する際は必要に応じて支援しながら家族等との交流を支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、写真や季節に応じた壁紙を掲示するなど、四季折々の五感に働きかける様々な刺激を取り入れた生活空間を大切にしている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファや畳などを配置し、玄関ホールにもベンチを置いてくつろげるようにしている。利用者個々の状態や、利用者同士の関係性に配慮した居場所づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち物に制限なく、利用者本人の思い出の品や写真を飾る等、馴染みのあるものを活かし、その人らしく過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全で自立した生活が送れるよう屋内各所に手すりなどを設置している。また、居室、風呂場、トイレ入口には親しみのある絵札をかけ、混乱や失敗を防ぐよう配慮している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームたんぽぽ

作成日

令和5年 8月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故の報告はあがってくるが、事故を未然に防止するための取り組みである「ヒヤリハット報告」が職員に浸透していない。	ヒヤリハット報告が当たり前にあがってくるような体制を確立する。	ヒヤリハットの報告形式を見直す。現在のように「報告書」としてあげてもらうのではなく、気づきをメモなどに記入してもらい、それを集約して後日まとめるなどの形式へ変更する等。	6か月以内
2	35	実践的な応急手当や初期対応の訓練について、コロナ禍の影響もあり全職員の受講に至っていない。	全職員が救急講習を受講する。	岩国地区消防組合が毎月実施している「定期普通救命講習Ⅰ」について、状況をみながら職員の講習を再開していく。	12か月以内
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。